

平成 30 年（2018 年）の知床硫黄山の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2018 年の発表履歴

2018 年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
-------------	-------------------

○ 2018 年の活動概況

・火口や噴気の状況（図 1～4）

7 月 30 日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂付近や北西側中腹の爆裂火口などに噴気は確認されませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、北西側中腹の爆裂火口で弱い地熱域が確認されましたが、前回（2017 年 7 月）と比較して特段の変化は認められませんでした。

また、カムイワッカ川や硫黄川の河口付近の海岸には、前回と同様に温泉水による変色域が確認されました。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 知床硫黄山 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平 29 情複、第 958 号）。

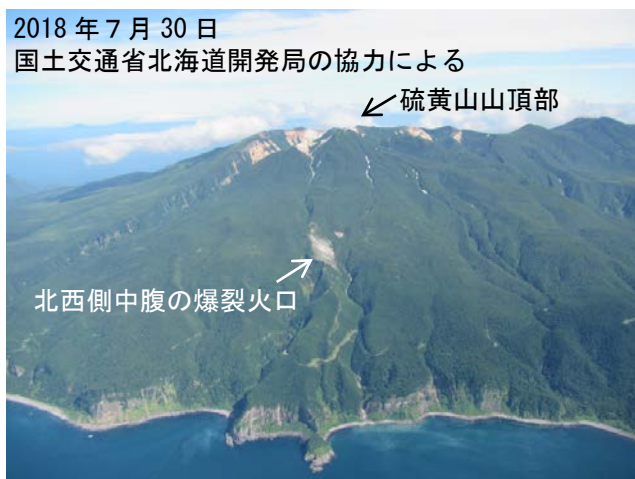


図 2 知床硫黄山 山体北西側の状況
北西側（図 1 の①）から撮影
・噴気は認められませんでした。



図 3 知床硫黄山 カムイワッカ川及び硫黄川から流出した温泉による変色水の状態
図 1 の②から撮影

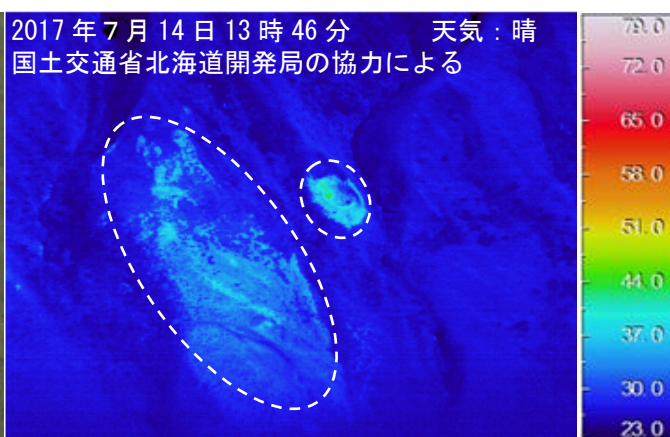
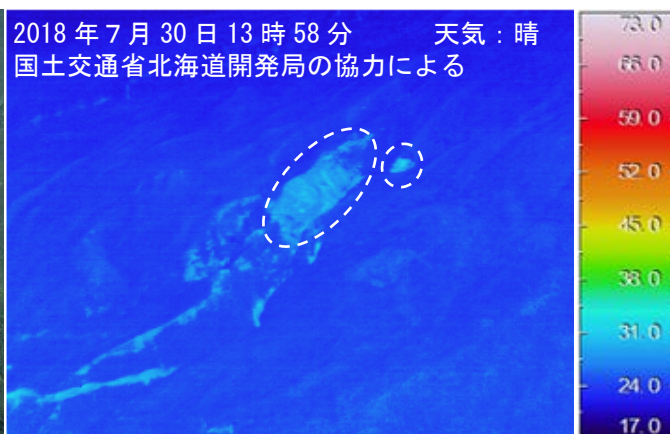


図 4 知床硫黄山 赤外熱映像装置による北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布
上：西側（図 1 の③）から撮影 下：北西側（図 1 の④）から撮影
・日射の影響を超える地熱域（白破線内）は認められませんでした。